



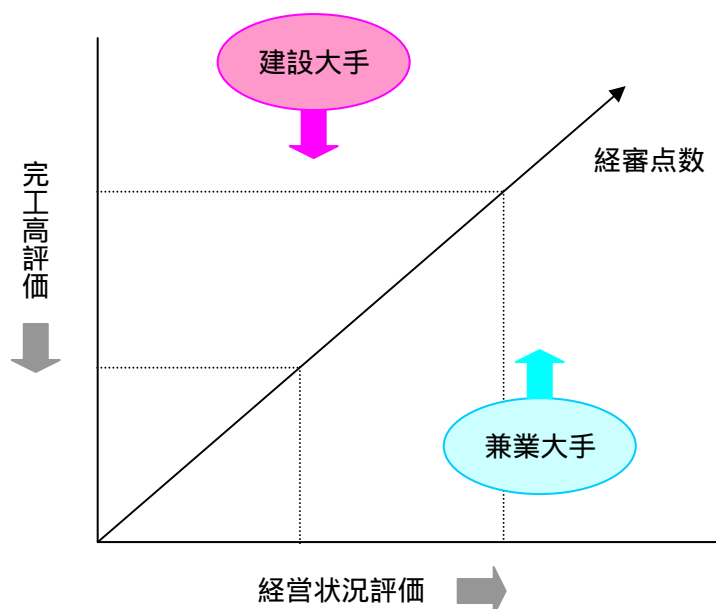
## < 経審指標のせめぎ合い 完工高(X1) >

先月号では、完成工事高(X1)の平均点は700点になるように設計されていることと、完成工事高(X1)の配点割合が長い期間では大きく下がっていると説明しました。しかし、完工高(X1)の指標については、たびたび評点テーブルの見直しを行っています。

下の表は、昭和63年以降現在までの間に、完成工事高(X1)に関して改正されたものをまとめたものです。建設投資が減少する中で、平均点の700点を維持するために頻繁に改正をしています。どの指標においても、平均点、配点の幅(上限値下限値の差)、点数の上がり具合(配点グラフの形)がどのようになっているかが大切ですが、国交省においては、完工高(X1)について、平均点を維持しながら、配点幅を縮小しようとする姿勢がはっきりとかがえます。しかし、建設投資の減少は、たとえば、経営状況(Y)にも影響すると考えられますが、完成工事高(X1)だけ改正されるのはどうしてなのかははっきりしません。

(表1) 完成工事高(X1)への配点

適用時期	P点計算式	下限値	上限値	説明	P点に対する配点割合
昭和63年 ～平成5年	$P = X1 ( 1 + 1/70X2 + 1/40Y + 1/55Z )$	14点	178点 上限2,000億円		
平成6年 ～平成10年6月	$P = 0.35X1 + 0.10X2 + 0.2Y + 0.2Z + 0.15W$	491点	3,270点 上限2,000億円		約50.1%
平成10年7月 ～平成14年6月	同上	554点	2,499点 上限2,000億円		約43.8%
平成14年7月 ～平成15年9月	同上	569点	2,565点 上限2,000億円	評点テーブルの見直し 上方修正	約44.3%
平成15年10月 ～平成18年4月	同上	同上	同上	評点テーブルの線形式化	
平成18年5月 ～平成20年3月	同上	580点	2,616点 上限2,000億円	評点テーブルの見直し 上方修正	約44.7%
平成20年4月 ～平成23年3月	$P = 0.25X1 + 0.15X2 + 0.2Y + 0.25Z + 0.15W$	390点	2,268点 上限1,000億円		約26.0%
平成23年4月～	同上	397点	2,309点 上限1,000億円	評点テーブルの見直し 上方修正	約25.8%



経営事項審査において、施工能力の評価にあたって、完工高(X1)は量的な指標として重要な役割を果たしてきました。しかしながら、完成工事高競争の弊害が指摘され、「経審」における完工高(X1)の実質ウェイトを引き下げる政策が取られることになりました。完工高(X1)には、施工能力の評価と規模の評価の両方の役割がありましたが、規模の評価の一部は、経営状況(Y)の絶対的力指標に移りました。そのことが、「経審」における業界の位置関係に少なからず影響を与えています。変化する評価方式にどのように対応するかをしっかりと考えなくてはなりません。(次月号に続く。)

注：図はイメージです。

WISENET編集部 松村 清(税理士)